

かがやき☆きただより 2017. 6月号

社会福祉法人かがやき神戸 北区事業所発行



〒651-1243

神戸市北区山田町下谷上

西丸山20-30

TEL 582-5544

発行責任者：松本 多仁子

・・・誰にとっても安心な社会は・・・

5月のさわやかな風の中、あたらしい世界が広がるかも・・・そんな予感にわくわくしてらっしゃる方も多いのではと思います。私たちも、この7月に、皆の思いがいっぱい詰まったショートステイ「とまり木」のスタートを切ることとなりました。木の香りのする建物に、7月から仲間のにぎやかな声が響き、仲間たちの大切な場になることと思います。「とまり木」建設にあたって、ご支援・ご協力をいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

新しい年度が明け、「やったー！！」と小さなピースをしたり、「そんない！！」と腹を立てたり悲しんだり、忙しい毎日を過ごしていることで「生きている」実感を得ています。障害のある仲間たちにも「今、生きている」と思える毎日をと切に願っていますが、実際には、日常的に多くの困難が横たわっています。

ある耳の不自由な人は、後ろから声を掛けられても分からずに「なんて失礼な人」と思われてしまい悲しかったといわれます。ある車いすの人は、外出の度にノンステップバスか、駅にエレベーターはあるか、トイレは、ヘルパーさんは確保できるかと悩み、結局、手配できず外出をあきらめたといわれます。ある目の不自由な人は、自動柵の無い駅から落ちそうになり電車が来ていれば大惨事となるどころだったといわれます。ある知的障害の人は、みんなの話が理解できず「こんな事も知らないの」と馬鹿にされ「出来ない」ことばかりに注目され自信を失ってしまったといわれます。心の病の方は、幻聴幻視に苦しんでいることがなかなか分かってもらえず、結局外に出られず引きこもってしまったといわれます。

どの人の生きづらさも、解決できないものではないと思います。自分の中にある差別への気づきや他者への配慮と言うことで解決することが多くあります。誰もが安心できる社会のあり方は、いつも障がいのある仲間から教えてもらっています。

国は今「我がこと・丸ごと」「共生社会」という方針を打ちだし、様々な差別や社会の不具合は、地域でそして市民同士の助け合いで解決するようという方向に力を入れていますが、それは、間違っているのではないかと考えています。社会福祉の制度や公共の施設のハード面が追い付かないと今の状況は打破できないと考えます。

もちろん、それぞれが自分の中にある他者への差別を意識し、それを乗り越え差別をなくす努力は大事だと思います。しかし、国が公的責任をしっかりと全うし社会の仕組みをつくることなしには、公共のバリアフリーも進みません。また社会資源を整えることや専門職員の育成をすることなしには、社会福祉分野は前進しないと思います。市民同士の助け合いは大事ですが、そこに介護問題や障害者問題、貧困問題などの社会福祉の専門分野を丸投げすることは、国として責任の放棄ではないかと考えてしまいます。

国の福祉予算を減らす方法に「共生社会」が利用される・・・それでいいのでしょうか？

介護も障害福祉も貧困も、まずは自分責任で、次に地域の責任だというのでは、ますます孤立と差別を生みだしてしまう・・・そんな危機感を持っています。

(松本 多仁子)

☆かがやき神戸の職員紹介コーナー☆



まずは

縁の下の力持ち！！非常勤職員からのメッセージ

最近ではリサイクル品募集のチラシを配布させていただき、たくさんのリサイクル品を譲って頂いています。地域の温かいご支援に感謝し、もっと地域の方々とのつながりを大切に活動していけたらと思っています。

(つくしんぼ 久麻衣子)

最初は障害を持っている方と接することに、無知ゆえの思い込みがありました。皆さんの食事を作っている私が咳きこんだ時、口元に飴が…やさしさに脱帽。ふれあうことで得た体験でした。

(のびのびホーム 佐藤浩子)



デスクワーク中心で、普段は仲間と関わる事は少ないですが、フレンドリーで明るい仲間達ととるコミュニケーションは楽しみでもあり、癒しになっています。

(事務局 濱田綾乃)

プログラム作業を支援する中、利用者さんの頑張り姿にいつも驚かされます。作品完成時は皆さん笑顔で輝いています。とても素敵です。

(ひだまり 日下浩子)

運転手として「待っている人のために全力を尽くす」を大切に、運転時の安全確認を確実にし、一日一日悔いのない仕事をしたいと思います。

(送迎運転手 小林簡)



クラウン活動のサポートとレク活動の支援をしています。趣味が多いです。腹話術・タップダンス・エアロビクス・ほかにも5年前からヴァイオリンも練習しています。

(ぐりいと 藤本勝子)

いっしょに働く仲間からは、小さな一歩から始まって、誠実に働く姿勢を長期的に続けることが、安心な居場所に繋がることを学びました。

(だんだん 谷本真理子)

続いて

力持ちに支えられているリーダーたち（管理職）



のびのびホームは、地域に5か所あり、19名の障がいがある仲間が生活されています。好きなものを食べたい！休みの日は出かけたい！結婚だってしたい！自分らしく暮らしたい！そんな誰もが思う、ごく当たり前の普通の生活を支えている事業所です。

【のびのびホーム 柴木一男・河野文孝】

地域にある社会資源として、地域福祉についてともに考え、ともに実行できる集団をめざし活動をしていきたいと考えています。

つくしんぼは、地域の方がたくさん職員として働いています。これからも地域とともにある事業所でありたいと思います。

【多機能型つくしんぼ 八幡孝至・武村厚志】

「ひだまり」では、様々な分野の講師の先生方、非常勤の職員さんのヘルプで、素敵なプログラムが用意できています。楽しい時間が社会への第一歩にと思っています

【ひだまり・たにがみ支援センター・発達障害者北部相談窓口センター長 松本多仁子】

ぐりいとではクラウン（道化師）の公演や自治会館の掃除などの仕事を通じて、地域や社会の様々な人とかかわっています。人とかかわりを通じて障がいのある人のことを知ってもらい、利用者も地域の中でいきいきと生活してほしいと思っています。

【ぐりいと 山本喜代己・水島良岳】



この度、西区から異動になり北区の本施設の配属になりました松田です。分からない事が多いですが、よろしくお願ひいたします。

【本部 松田崇介】



モンゴルと日本のかけはし～関谷 久之さん～

今回は地域のレジェンドでもありながら、北区・・・、いや日本を飛び出し、20年近くモンゴルとの国際交流を続けていらっしゃる、関谷久之さんをご紹介します。



モンゴル元首相(左)と関谷さん(右)

Q なぜ、モンゴルとの交流をはじめたのですか？

モンゴルは阪神淡路大震災の発生直後に海外から一番最初に支援物資を届けてくれた国です。そのモンゴルに何か恩返しをしようということになり、モンゴル国最西部にある遊牧民の村「オブス県マルチン村」というところに、ボランティアで図書贈呈を継続し図書室を開設しました。

Q マルチン村とはどんなところですか？

モンゴルの首都ウランバートルから西へ約 1000 kmに位置します。村の面積は兵庫県の約半分、人口は約 2000 人で大半が草原で家畜を飼って暮らす遊牧民です。就学率は高く村の中心部から離れて暮らす遊牧民の子どもたちは、寮で暮らすなどして学校に通っています。これまでチャリティ活動の収益や寄付などを元に約 1200 冊の贈書を行い、村の子どもだけではなく大人たちにも本が貸し出されています。旅行ガイドブック「地球の歩き方」に「神戸から贈られた図書室があり大切に使われている」という記事が紹介されています。

Q どのような交流をされていますか？

子どもの絵画展や写真展を相互開催しています。例えば神戸の子どもが家族で潮干狩りに行った絵を描いてくれたのですが、モンゴルには海がない



モンゴルで開催した子供の絵画展

ので、すごく興味をひくことになります。遊牧民の子どもが描くお父さんはもちろん馬に乗って仕事をしています。

関谷さんのお話を伺い、自分のいる場所が世界のほんの一部であると改めて感じる事ができました。私も関谷さんのように広い世界へ出向いたり、交流を図りたいな～と憧れを抱きつつ、かがやき神戸の職員として、まずはこの地域の皆さんと様々な活動で交流を図りたいと思う取材になりました。

絵や写真はお互いを理解するためのツールになると思います。また、兵庫県国際交流協会の協力を得てモンゴルの音楽教師を日本に研修で招き、児童音楽教育への器楽合奏カリキュラム導入などの支援を行っています。広陵小学校や広陵中学校の音楽授業の視察もさせて頂きました。

Q 地域での活動についても教えてください。

小学校2年生の教科書に「スーホーの白い馬」というモンゴルの物語が載っています。今年で7年目になりましたが、この特別授業を妻と手作りの紙芝居で行っています。またふれあい街づくり協議会主催の音楽会に出演しモンゴルをテーマにした演奏などを行っています。かがやき神戸さんのイベントにも出演させて頂きました。

Q 今後どのような活動に取り組まれますか？

モンゴルに「友達の多い人生は豊かな草原と同じ」ということわざがあります。また私は「Think Globally, and Act Locally」(地球規模で考え地域で行動する)という言葉が好きなのですが、やはり自分の好きな音楽を通じた交流活動が出来たら良いなと思っています。ミニ写真展やミニコンサート、気軽に声をかけてください。



遊牧民が草原で暮らす移動式テント「ゲル」



ショートステイ「とまり木」が完成しました！

多くの方々が心待ちにしていたショートステイ「とまり木」ですが、昨年11月の着工から順調に工事が進み、このほど滞りなく竣工の運びとなりました。「とまり木」完成に至るまでの道のりには、困難を伴う事柄もありましたが、「何とせよかがやきのショートステイをつくりたい！」という思いが集まり、全員が心をひとつにして取り組んできた結果だと思えます。ショートステイ建設にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

また工事期間中は、近隣の皆さまには工事車両の通行等で何かとご迷惑をおかけしましたが、ショートステイ建設へのご理解並びにご協力いただき、まことにありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



みなさん！ 応援してくださーい！

「支援する会」とは、法人設立時からかがやき神戸を物心両面で支えている後援会です。現在会員約500名。かがやき神戸を応援するファンクラブとも言えます(^ ^) 会員になって下さった方には、年4回の機関紙「かがやき」をお送りしています。

「**社会福祉法人かがやき神戸を支援する会**」への入会のお願い（年会費 1000円）

振込先：郵便振替 口座記号番号 00930-1-67354

加入者名 社会福祉法人かがやき神戸を支援する会

☆障害者福祉の充実をめざす「**きょうされん賛助会員**」にも、ご協力下さい☆

（年会費 個人3000円 団体6000円）

振込先：郵便振替 口座記号番号 00970-3-250425

加入者名 きょうされん兵庫支部

あ・な・た・の・入会♪

お待ちしております～♪



「きょうされん」とは、1977年に設立した作業所連絡会です。現在は就労作業所に限らず、福祉関係者が障がいのある人の暮らしを守るため、様々な活動しています。きょうされんはスポンサーを持たない、賛助会員に支えられている会です。賛助会員になって下さった方には月刊誌「TOMO」をお送りしています。

—編集後記—

梅雨の季節になりました。毎日、雨が多くて、ジメジメした湿気の多い季節で嫌な気分になってきます。でも、雨の日はマイナスイオンがたくさん出ていてリラックスできたり、晴耕雨読の言葉の通りに読書に最適な季節だそうです。私もそんな風に梅雨を楽しんでみたいと思います。(U)